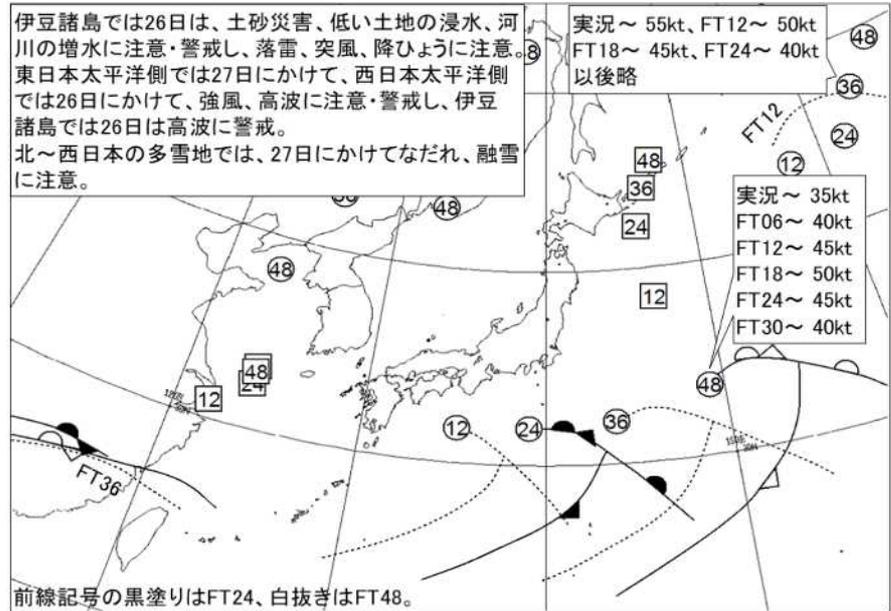


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5700m付近のトラフ対応の前線を伴う低気圧が、発達しながら四国の南を東北東進。温暖前線が日本の南にのび、寒冷前線が南西諸島の南にのびている。西～東日本では低気圧や前線北側の降水が広がっており、低気圧付近の四国沖で雷を検知。低気圧近傍では強い風が吹き、波が高くなっている。
- ② 日本の東に高気圧があって北日本では高気圧に覆われて晴れている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、500hPa 5640m付近で-15°C以下の寒気を伴うトラフに対応して発達し、26日朝には伊豆諸島付近へ、26日夜にかけて日本の東へ進む。寒冷前線は26日夜に小笠原諸島を通過する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気が流入し、上空の寒気の影響も加わって、大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨の降る所がある。伊豆諸島では26日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の高気圧は、中心を北に移して26日夜にかけて北に移動し、27日にかけて千島近海へ移動する。2項①の低気圧と高気圧の間では気圧の傾きが大きくなって、特に低気圧周辺では非常に強い風が吹く所があり、波が高くなり大しけとなる所がある。東日本太平洋側では27日にかけて、西日本太平洋側では26日にかけて、強風、高波に注意・警戒し、伊豆諸島では26日は高波に警戒。
- ③ 500hPa 5460m付近で-27°C以下の寒気を伴うトラフが、27日～28日にかけて北日本を通過する。また、500hPa 5700m付近の強風軸に対応して、27日には華南の前線が東シナ海にのびる。北～東日本では27日は、上空寒気の影響で、南西諸島付近では27日は、前線に向かう下層暖湿気の影響で、それぞれ大気の状態が不安定となる可能性があることに留意。
- ④ 2項①の低気圧や前線による降水に加え、850hPaで平年差+5°C前後まで昇温する影響で、雪解けが進む所がある。北～西日本の多雪地では、27日にかけてなだれ、融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の四国の南から日本の東へ進む低気圧の位置や勢力は不確実性が大きいことに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島120mm。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島6、近畿5、関東・東海・四国4、九州北部・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。